

ダークライダーの力を
受け継ぎし者と言うス
レ

久生蝟螂

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

仮面ライダージオウの世界に転生を果たしたオリ主が最高最善の魔王の道を舗装する物語。

目次

夢	68
圧倒	54
歪み	39
進路	19
誕生。	1

誕生。

1：ライダー転生者

あの、ライダー系転生者の為の掲示板のスレ立てはこれで良いんですか？

2：平から成り上がった最強のクロノス

おう、それでええんやで。スレ立て乙。

3：緑ウオズ

祝えっ!!？新たな転生ライダーの誕生を!!？

4：鬼滅のイクサ

何か困った事でもあったのか？

5：呪術師のウィザード

何かわからない事があつたらまずは周りの状況を教えてくれ。そうすれば力になれるかもしれない。

6：ライダー転生者

ありがとうございます。

実を言いますと僕の周囲が何も無い荒野なんですよね。あ、いや奥に巨大なロボット

が見えますね。どの作品かみなさんわかりますか？

7：鬼滅のイクサ

え

8：緑ウオズ

イツチは仮面ライダーを何処まで視聴しているんだい？

9：ライダー転生者

僕はエグゼイドまでしか。ビルドは第31話までなら見てます。アマゾンズは全て視聴済みです。

10：呪術師のウイザード

おう、成る程な。

11：平から成り上がった最強のクロノス

宝生永夢ウ！（幻聴）

12：鬼滅のイクサ

何故君が適合手術を受けずにエグゼイドに変身出来たのか。

13：緑ウオズ

何故新しいガシャットを生み出したのか。

14：元格闘家のクローズ

何故変身直後に頭が痛むのかあ！

15：ライダー転生者

とりあえず作品を早く教えてください。

16：呪術師のウィザード

イツチセツカチ過ぎて草。

17：平から成り上がった最強のクロノス

おう。イツチが転生したのは仮面ライダージオウの世界やな。

18：緑ウオズ

辺りが荒野なのはそこが2068年だからだね。奥にいるロボはダイマジンって
いう奴やな。イツチはオーマジオウという言葉を聞かなかったかい？

19：ライダー転生者

確か、近くにいた人が「おのれ、オーマジオウ！」と叫んでるのを見ました。

20：HUGつと鳴滝

いや、そこはデイケイドだろ。

21：元格闘家のクローズ

プリキュア大好きおじさんは引つ込んで下さい。世界が壊れます。

22：呪術師のウィザード

辛辣すぎるwww。

23：緑ウオズ

解説いいかな？オーマジオウというのは2068年の世界を支配する仮面ライダーの王様だね。「仮面ライダージオウ」の主人公常盤ソウゴはそれになる運命にあるんだ。

24：鬼滅のイクサ

それを阻止する為にレジスタンスのゲイツとツクヨミという奴が2018年に飛んでくるところから話は始まるんだな。

25：ライダー転生者

未来から刺客が来るなんてオーマジオウは何か悪い事でもしたのですか？

26：緑ウオズ

いや、悪い事はしてないんだが勘違いされているんだね。

27：呪術師のウイザード

イツチは何か変身アイテムを持ってないか？

28：ライダー転生者

さつきから腰にドライバーが巻きついていきます。端に二つのスロットがありますね。

写真添付

29：鬼滅のイクサ

仮面ライダージオウの変身アイテムジクウドライバーやな。スロットにはライドウォッチというアイテムが入る筈だが、イッチは持つてないか？

30：ライダー転生者

この時計みたいな奴ですかね。ライダーの顔が描れています。

31：平から成り上がった最強のクロノス

それがライドウォッチやな。ライダーの歴史が、それに詰まっているんやで。

32：緑ウォズ

因みにイッチは何のライダーのライドウォッチを持つているんだい？

33：ライダー転生者

サイガ

メタルビルド

ダークカブト

ダークゴースト

の4つですね。あと知らない奴が一つ。

写真添付

34：HUGっと鳴滝

全員がダークライダーなのは驚きだな。しかもかなり良い手札だ。

35：元格闘家のクローズ

クロックアップが使えるカブト擬きがあるのは大きいな。

36：呪術師のウィザード

カブト擬きでおまwww。まあ、メタルビルドとカブト擬きがあるなら近接は安心やな。制空権を確保出来るサイガや、特殊能力を使えるダークゴーストもあるからバランスも取れてる。

37：鬼滅のイクサ

知らないウオッチとは？写真を見る限りジオウに良く似てるが。

38：緑ウオズ

さあ？それは使ってみないと分からないね。イツチの近くに試せそうな敵はいないかい？

39：平から成り上がった最強のクロノス

お試し感覚で相手を殺そうとするなwww。

40：呪術師のウィザード

二人で遊べる！仮面ライダーなりきりお試しセット!!？（但し相手は死ぬ。）

41：元格闘家のクロローズ

ヤベーイ!!？ モノスゲーイ!!？

43：鬼滅のイクサ

お前からヤメロwwww。というかイツチはゲイツたちレジスタンスとオーマジオウのどちらにつくんんだ？それで今後の展開が大きく変わるが。

44：ライダー転生者

僕はやっぱり主人公のジオウ側に付こうかと。この状況でオーマジオウに逆らうのはリスクが高すぎます。

45：平から成り上がった最強のクロノス

懸命な判断やと思うで。自分が弱い内は余り派手に動かない方がいいしな。長いものには巻かれるや、イツチ。

46：鬼滅のイクサ

流石、経験者は語る。

47：緑ウオズ

辞めないかwww。確かに我が霸王に従うのが2068年ではベストな判断だね。ところでイツチは腕に自信はあるかい？

48：ライダー転生者

転生前に合気道をやっていた事があります。怪我で辞めましたが。

49：呪術師のウィザード

なら安心だな。ゲイツは仮面ライダーゲイツになる奴なのだがな、コイツ素の頭はいい癖に戦いになると脳筋になる。そこが突きどころやな。

50：元格闘家のクローズ

そのせいで殆ど実戦経験が無いジオウにも叩きのめされたからな。他のライダーの力も使わなかったしな。なんなんだ彼奴？

51：HUGつと鳴滝

ポルテックタータイムブレイク！（死刑宣告）

52：緑ウオズ

それでレジスタンスとか、恥ずかしくないんですかあ？

53：鬼滅のイクサ

未来の救世主（笑）

54：平から成り上がった最強のクロノス

☒☒「いけませんねえ、実に不用心だ。」

55：ハイスクールファイズ

辞めなげな！ゲイツのライフはもう0よ！

56：カフェ・オ・エボルト

ゲイツ・負けすぎステイ

57：エターナル京水

敢えて追い討ちを掛けるのね！嫌いじゃないわ！

58：ライダー転生者

あの：向こうから人の集団が向かって来るんですが、レジスタンスですかね？武器を携行してます。しかもその中に白い服の女の子が…。

59：緑ウオズ

イツチ、もしかしてその女の子白いマントを背負ってないかい？

60：ライダー転生者

ええ、羽織ってます。

61：ハイスクールファイズ

間違いないね、彼女がツクヨミだ。ならばゲイツが一紹にいる可能性大だ。仕掛けるなら今だね。

62：呪術師のウィザード

しかし、こんなにも早く原典の人物と接触するとはな。こりゃあ本編とまた違った展開になるぞ。

63 : エターナル京水

時空が歪み始めているわ……。

64 : ライダー転生者

僕の行動次第では大きく本編から外れる結果になるんですかね？

65 : HUGと鳴滝

たつた一つの軽はずみな行動が結果として大きな変化を呼ぶことがある。

それは時間軸にも言えることだ。元々、我々のいる世界は正史である本編から幾つもの分岐した結果生まれた場所だ。一つの世界があれば、それだけ分かれる世界も多い。しかも、分かれるきつかけもかなり些細なことだ。これは私が幾つもの世界を旅して得た知見だ。長文失礼します。

66 : 鬼滅のイクサ

ま、要は君の選択次第だな。転生者。

67 : ライダー転生者

………やってみます。ゲイツ達と接触してみます。

68 : 元格闘家のクローズ

そうなるかと戦うことになるな。ま、遅かれ速かれ彼らとはかち合うことになるからな。「鉄は、熱い内に打て。」だな。

69：緑ウオズ

イツチ、勝算はあるかい？

70：ライダー転生者

自信はありませんが、やってみます。あ、来ました!!？

71：平から成り上がった最強のクロノス

ま、頑張れや、イツチ。

72：カフエ・オ・エボルト

いつてらっしやい♪イツチ。

73：呪術師のウイザード

イツチ、ライブ配信出来るか？

74：ライダー転生者

ええと、こうですかね？

75：緑ウオズ

ああ、ありがとう。じゃあ、いつてらっしやい。

2068年。この世を支配するオーマジオウに対抗するレジスタンスこと明光院ゲイツは、ツクヨミを始めとする同志を連れてオーマジオウの配下にあるロボット、カッシーンの生産を行う工場を襲撃する為に歩を進めていた。荒野の砂が風によつて吹き付けられ、此方に被さつて来るが、それを物ともせず前へと進む。挫ける気は毛頭無い。

この世界をオーマジオウの魔の手から解放するまで諦めない。

その為にも、オーマジオウの取り巻きであるカッシーンの生産の妨害は重要な任務だ。なので今回は選りすぐりの精鋭を連れて来た。

仮面ライダーゲイツに変身出来る自身を始めとして、生身でカッシーンと戦う武闘派少女ツクヨミ、レジスタンスの中でも在籍年数が長いベテラン勢17人を連れてきた。ツクヨミはこの際に若い隊員も連れて行くべきだと言ったが、工場の警戒は厳しいだろうし、彼らでは荷が重いとして却下した。

坂を越えた所で、ツクヨミが何かを見つけたらしく、声を上げた。

「ゲイツ、あれ！あそこに人がいる！」

「何！」

思わず彼は目を見張った。

作戦がバレたのではないかと思つたからだ。今回の作戦は重大な案件であり、機密保持は徹底して出撃した筈だった。仲間にも黙っていた程だ、寧ろ、精鋭を連れて来たのはその為だとも言える。

とりあえず、向こうに見える人に話しかけてみる事にした。

「おい、お前何者だ？」

相手が答えた。

「まず、他人に名を聞く時は自分から名乗り出るべきだと思うよ。」

癪に障る奴だな。そう思いつつも、相手の出方を伺う為にも彼に従う事にした。

「俺は明光院ゲイツ。見ての通りレジスタンスだ。お前は？」

任務の事は、敢えて言わない。奴がレジスタンスにいたのを見たことはないが、知っているなら自分もそうだと名乗る筈だ。そうでないなら、敵と判断する。奴の答えは……。

「ふふ、そうかい、君が仮面ライダーゲイツか。面白い。受けて立ちましょう。あ、申し遅れました。私は浦山純一と申します。以後お見知りおきを。」

慇懃無礼に自分に挑戦状を叩き込んだ相手を見つめる。

茶色の髪に整った顔。髪は長く女性の様だ。服はアラビア人を思わせるような白く

薄い長袖の服で、首にも白いマフラーが巻き付けられている。奴は余裕そうに此方を見つめている。

ならば、此方から行かせて貰うとしよう。ポケットから自分のライドウオッチを取り出し、外装のグリップを指で動かしてスイッチを押す。

『GEIZ!』

「変身!!?」

それをあらかじめ腰に装着していたジクウドライバーにセットし、上部のボタンを押す、ベルトからアナログ時計を思わせる待機音が鳴り響き、背後に巨大な時計が現れると同時に腕を前へと突き出して針の様に一周させると、ベルトを180度回転させる。それに連動して背後の時計も回転し、ゲイツの体を結界が覆い、その中で彼に鎧が装着された。

『RIDER TIME! KAMEN RIDER GEIZ!』

赤い装甲を纏う黄色の複眼を持つ未来の救世主。

仮面ライダーゲイツが顕現した。すると浦山と名乗った男もまた、ポケットからライドウオッチを取り出したかと思うとゲイツと同じ様に起動させた。

『PARADOX!!?』

彼は腰に装着されたジクウドライバーにセットしてボタンを押すと、ゲイツのそれとは又違った待機音が流れて、彼の後ろにドス黒いオーラを纏ったひび割れた時計が現れた。浦山は右腕を天高く掲げ、自分の目の前に寄せて拳を握り左手でジクウドライバーを180度回転させると同時に右腕を相手を挑発する様に突き出した。

「変身。」

その言葉と共に紫色の結界が浦山を覆い隠し、紫紺色の鎧を装着させた。ベルトが戦士の名を告げる。

『RIDER TIME！ KAMEN RIDER PARADOX！』

本来なら決して参加することのなかった歴史のイレギュラー。

仮面ライダーパラドが今、誕生した。

お互いが仮面ライダーに変身した所で両者は睨み合っていたが、先陣を切ったのはゲイツだった。ゲイツは走り出すと同時にパラドに向けて正拳突きを繰り出した。それに対し、パラドはこれを右手で払い除けるとそのまま無防備な腹に拳を打ち込み、ゲイツが呻き声を上げて怯んだ所で更に彼の頭に向けてハイキックを叩き込む。予想外の威力の腹パンに怯み、注意が逸れていたゲイツはキックに対処出来なかった。吹っ飛ばされたゲイツは地面を転がり、苦悶の声を上げたが、直ぐに立ち直ったかと思うと、腕のホルダーからライドウォッチを取り出し、起動させた。

「ならば、コイツだ！」

『DRIVE!』

平成のレジェンドライダー、仮面ライダードライブの力を宿したドライブライドウオッチを起動させ、ジクウドライバーの端に設置し、ボタンを押して先程と同じく180度回転させた。

『ARMOR TIME! DRIVE!』

DRIVE!!?』

「一つ走り突き合えよ!!!」

ゲイツより赤い装甲、ドライブアーマーを装着した仮面ライダーゲイツドライブアーマーは、宣言と共に瞬時に、その場にいる人の視線から消えたかと思うと、超加速の世界へと入り込んだ。それに対して、仮面ライダーパラドは動じることなく、一つの黒いウオッチを起動させた。

『METALBUILD!!?』

パラドは、ゲイツが高速で攻撃する直前に、ライドウオッチをベルトにセットして、ジクウドライバーを回転させる。すると、パラドの背後に周りこみ、一撃を加えようとしたゲイツドライブアーマーの打撃を突如として現れたメタルビルドアーマーが防ぎ、バラバラに分かれた上で、パラドの全身に装着された。

『ARMORTIME!ヤベーイ!!? METALBUILD!』

「僕が一番だよ。」

かつて、科学の犠牲となった孤独なテロリストの力を宿した仮面ライダーパラドメタルビルドアーマーは、頭部に装着された白いミリタリーライトアイタンクがゲイツドライブアーマーの超加速を捉え捕捉するまでの間、腕を後ろに組んで、棒立ちしていた。ツクヨミを始めとする周囲の人々は皆、ゲイツが勝つのではないかと思っていた。だがしかし、幾度目かのゲイツの背後からの襲撃をパラドは、正確に見切つて彼の首を乱暴に掴んだ。

突然の反撃に思考が停止してしまったゲイツは、対処出来ずにそのまま無防備な体を晒していた。片手で彼を釣り上げたパラドは彼の耳元でゆっくりと囁いた。

「君じゃ僕には勝てないよ。」

「こんのおー!」

彼はジクウドライバーにセットされたパラドクスウォッチのボタンを押した。死刑宣告の音が鳴る。

『FINISH TIME!!?』

続けてメタルビルドウォッチを押す。

『METALBUILD!!?!』

上部のボタンを押してジクウドライバーを180度回転させる。

『HAZARD TIMEBREAK!!!』

右脚に紫色のエネルギーが収束され、ゲイツを掴む手に力がこもる。

彼の呻き声がこれまで以上に大きくなった所で時計の針が反回転する様にして放たれた中段の蹴りが戦車の履帯を模したエネルギー波を纏ってゲイツの胴体に直撃した。余りの威力にゲイツは吹き飛び、変身解除に追いやられた。

彼はパラドを睨み付けたが、それに動じること無く、冷徹に言い放った。

「言つたでしよ。君は僕には勝てない。」

悠然と立つその姿は、彼の余裕そのものであった。

敗走する中でも、ゲイツの中の屈辱は消えなかつた。

進路

76：緑ウオズ

ライブ配信中…

『君じゃ僕には勝てないよ。』

え、ちよつと待って怖すぎるんだけど。

77：元格闘家のクローズ

我が魔王より魔王している件について。

78：ハイスクールファイズ

うちの草加よりヤベーイんだが……

79：平から成り上がった最強のクロノス

いいぞ、もっとやれ。

80：HUGつと鳴滝

やめんかワレwww。しかし、イツチの戦闘パターンが本家とよく似てるな、本
当に空恐ろしいぞ。

81：カフエ・オ・エボルト

ああ、俺が見た時、思わずハザード使った戦兔を思い出したぞ。

82：エターナル京水

怖くて強いイツチちゃんも、嫌いじゃないわ！

83：鬼滅のイクサ

なんだこれは：たまげたなあ。イツチの目がどことなくキレイた時の無一郎に似ている様な…。アイツまじでキレイると怖いんだよ。

84：平から成り上がった最強のクロノス

そうか？どっちかと言えば宝生永夢ウー！のチベスナ顔に似ている気がしているんだが。まあ、どっちもその瞳には虚無が宿つとるんだらうがな。

85：元格闘家のクローズ

たった今イツ君がタイムブレイクで変身解除されたで。相変わらずハザード系の必殺技は怖いな。

86：エターナル京水

イツたちは逃げて行ったわね。それに増しても恐ろしい戦闘能力ね。初戦闘でイツ君を撃破なんて。

87：ハイスクールファイズ

ええ、しかもアーマーの選択が良い。

88：鬼滅のイクサ

何でドライブブーマーに対してダークカブトを使わなかったんだ？

89：緑ウオズ

確かにクロックアップを使った方が速いんだけど、ドライブには重加速があるからね。封じられる可能性があったからじゃないかな？だから純粹にスベックで勝るメタルビルドで挑んだじゃない？

90：鬼滅のイクサ

成る程。ありがとうございます。

91：HUGつと鳴滝

ところでイツチが女の子に見えた件について。

93：ハイスクールファイズ

鳴滝さん。あなた遂にイカれる所まで行ったんですね……。

94：元格闘家のクローズ

大丈夫だ。元々イカれた奴だからな。何せプリキュアの子たちにストーカー紛いの事をやっていたからな。

95：HUGつと鳴滝

おい、待て、それは言わない約束だった筈だぞ。おのれクローズウ！

96：エターナル京水

いくらなんでも私もそれはないと思うわ。

97：平から成り上がった最強のクロノス

まあ、鳴滝の汚い性癖は置いておくとして、でもイツチが女の子に見えたのは俺も同感だ。髪も長いし、顔も良い。声も高い方だしな。

98：カフエ・オ・エボルト

髪はスーパーヒーロー戦記の常盤ソウゴみたいだったな。結構長い。顔は、Hey!
! S O y ! J O m p の山 O 涼介か、鈴木 O 樹みたいだな。声も似ている。

99：緑ウオズ

そんな声で耳元に囁くなんて反則よ。

100：ライダー転生者

あれ？皆さんお揃いで何を話しているんですか？

101：カフエ・オ・エボルト

あ、おう、イツチお帰り。

102：エターナル京水

お帰りなさい♪イツチ。

103：ライダー転生者

…なんか話逸らされた気がしますが、ただいま。とりあえずゲイツ君を叩きのためしておきました。あ、後オーマジオウに会いましたね。

104：鬼滅のイクサ

ふむふむ、オーマジオウね、ふ…む？え？嘘（思考停止）

105：ハイスクールファイズ

んっは？

106：元格闘家のクローズ

待て待て待て待て待て！オーマジオウだとお！

107：緑ウオズ

我が霸王!!??

108：平から成り上がった最強のクロノス

え、いやいや、オーマジオウ？それだけでも十分可笑しいのだが？まあ、まずは

状況整理や。イッチは何かされたか？

109：ライダー転生者

いえ、僕は何も。寧ろゲイツを撃退した札を言われましたよ。したも新しいライ

ドウオツチ貰いましたし。

110：カフエ・オ・エボルト

それは良かったじゃないか、イツチ。んで、何のライドウオツチを貰ったんだ？

111：ライダー転生者

三つですね。

アナザーパラドクス

タイラント

ブラックバロン

写真添付

112：鬼滅のイクサ

どれも強いのはかりだな。しかも皆ダークライダー。

113：緑ウオズ

しかも、Vシネマ限定だね。我が霸王もかなり洒落が分かる御尽じゃないか。

114：ハイスクールファイズ

エナジーアイテムを自由自在に使えるアナザーパラドクスを得たのはかなりデ

カイですよ。

115：ライダー転生者

でも他がね、ちよつと。微妙というか。

116：呪術師のウィザード

ブラックバロンが得意とする近接はメタルビルドとダークカブトで充分事足りるしな。タイラントはソニックアローによる遠近一体の戦いが出来るがアナザーパラドクスや、ダークゴーストの様な特殊能力も無い。かと言ってサイガの様に相手に絶対的なアドバンテージを取れる訳でもない。ま、良くも悪くもバランス型だな。長文失礼します。

117：エターナル京水

あら、ウィザードは今まで何処行ってたの？

118：呪術師のウィザード

こっちの世界での仕事を立て込んでいたからな。遅れたのはすまん。

119：ハイスクールファイズ

ウィザードさんは今本編ではどの辺りにいるんですか？

120：呪術師のウィザード

今は渋谷事変直前、宵祭り編やな。

121：元格闘家のクローズ

となると高専の内通者が判明したあたりか。俺は今本編では45話エボルトと殺り合つてるところだ。

122：カフェ・オ・エボルト

おー殺伐としてるなあ。俺はまったりカフェ経営してるよ。

123：緑ウオズ

二人の落差が激しすぎないかなwww。今私は鎧武編だね。

124：鬼滅のイクサ

無限城編だね。あのクソ童磨とやり合ってます。

125：逢魔時王

ライダー用転生者の掲示板はここか？

126：平から成り上がった最強のクロノス

おう、ここや……………☒

127：ハイスクールファイズ

え、え？え？

128：カフェ・オ・エボルト

ファ☒

129：エターナル京水

少女思考停止中

130：元格闘家のクローズ

え、ちよオマ…………

131：緑ウオズ

我が霸王……………？

132：逢魔時王

別次元のウオズか。相変わらず若き日の私が世話をかけるな。

133：緑ウオズ

いえ！滅相も御座いませぬ！全力で補佐させて頂きます！

134：カフエ・オ・エボルト

しかし、逢魔時王とあろう者が何の用だ？

135：逢魔時王

実はお前たちが言うイツチのことだな。単刀直入に言えば、若き日の私の為に協力して欲しいのだ。彼の覇道の為にな。

136：鬼滅のイクサ

覇道か…具体的には何を？

137：逢魔時王

ダークライダーたちの力を集めるのだ。若き日の私がオーマジオウになる為には全てのライダーの力を集める必要がある。だがその中には決して回収出来ないダークライダーたちの物もある。

138：ライダー転生者

成る程。確かに僕が最初から持っていたライドウォッチのライダーたちは皆死人でしたね。

139：逢魔時王

その通りだ。失礼ながら先程お前の魂をゴーストライドウォッチで見せて貰ったが、お前の魂はダークライダーたちの力を惹きつける魅力の様なものがある。恐らく転生者特権とかいう奴だ。それを活かして力の回収をして欲しいのだ。

140：呪術師のウィザード

状況は把握できたが、そんな簡単に集まるものなのか？死人ならエターナルやアマゾンシグマなど数え切れない程あるぞ。

141：逢魔時王

その場合は私が適宜与える。だから心配はいらん。

142：平から成り上がった最強のクロノス

成る程な。しかし、イツチの役割はどうするつもりや？

143：逢魔時王

デイケイドと言えば分かるか？

144：HUGと鳴滝

つまりはトリックスターと。

145：緑ウオズ

これはかなり熱い展開になりそうだね。

146：ライダー転生者

事情は分かりましたし、協力しますが、そうなると鳴滝さんが言った様に本編に比べてかなり展開がずれませんか？

147：逢魔時王

確かにそうなる事は否めん。しかし、この世界を、ライダーたちの歴史をスウオルツ如きに変えさせません。その為にもイレギュラーとなるお前の力が必要なのだ。

148：元格闘家のクローズ

悲報、スウオルツ、遂に逢魔時王にも如き氏扱いされる。

149：鬼滅のイクサ

やはり如き氏は何処まで行っても如き氏だった。

150：ハイスクールファイズ

ラスボス（借り物の力）

151：エターナル京水

妹に背中を刺された情け無い兄。

152：緑ウオズ

最強の力（笑）

153：呪術師のウイザード

オーマジオウの力を吸い切れなかった器

154：平から成り上がった最強のクロノス

これにはユートピアドーパントも苦笑い。

155：カフェ・オ・エポルト

なんでや！王家の力あるやろ！

156：ライダー転生者

雑談はそれ位にして下さい。我が霸王、まずは何を？

157：逢魔時王

まずはジオウの目の前でお前の力を示して貰いたい。その為にももう一度ゲイツと交戦して欲しい。飛ばす場所はアナザービルド編にしたいのだが、どうだ？

158：緑ウオズ

結構序盤からですね、我が霸王。

159：ライダー転生者

でも、力を示すには丁度良いですね。ソウゴ君も戦いには慣れてないだろうし、

余計に受ける印象が強いじゃない？分かりました。僕をアナザービルド編に飛ばして下さい。

160：逢魔時王

話が早くて助かるぞ。なら早速そうして貰う。

161：カフエ・オ・エボルト

いつてらっしやい、イツチ♪

162：エターナル京水

気をつけるのよ！

163：緑ウオズ

いつてらっしやい。イツチ。

164：ライダー転生者

はい！では行ってきます。

『クローズズ ギワギワシユート!』

その音と共に仮面ライダーゲイツの武器、時間敵斧ジカンザックスのゆみモードから蒼い龍を思わせるエネルギー弾が放たれ、先程、ジオウのビルドアーマーの一撃を受けて吹き飛んだアナザービルドに向けて高速で突撃していく。重力に従い落下していくそれに仮面ライダークローズの力を宿した一撃は狙い過たず命中し、大きな爆発を起した。

それでもなお、アナザービルドは生きていたが、追撃として放たれたジオウの攻撃により、限界を迎え、遂に撃破された。変身者であったスポーツ選手は気絶し、排出したアナザービルドウォッチは粉々に砕け散った。これでひとまず、タイムジャッカーの野望は打ち砕いた。そう思った仮面ライダーゲイツの変身者、明光院ゲイツはほつと息を吐いた。

ふと隣を見ると、変身を解除しているジオウこと常盤ソウゴの姿が目に入った。此方に顔を向けて笑い掛ける奴に、思わず唾を吐きたくなる。全く呑気なものだ。自分の命を狙っている刺客の前で易々と生身を晒すだなんて。彼奴の頭にはお花畑でも広がっ

ているのだろうか？ツクヨミが彼奴は王になるとは思えないと言っていたが、案外その予想は当たっているのかもしれない。まあ、どちらかと言えば、奴がまだ普通の高校生だからレジスタンスとして過ぎてきた俺とはオーマジオウについては認識の差があるのだろう。そう思っただけで変身を解除しようとした所で、ジオウの顔つきが明らかに変わった。その直後、叫び声が上がった。

「ゲイツ！後ろ！！？」

思わず振り返ると目の前にまで紅い光弾が迫っていた。俺はそれを体を捻って間髪でそれを回避した。光弾はジオウを掠めて、虚空の彼方へと消えていった。ゲイツは光弾を放った主をこの目ではつきりと捉えた。その姿に、思わず声が出て仕舞う。

「お前は……………！！？」

「やあ、久しぶりだね、ゲイツ君。」

そのライダーの姿はゲイツにとっては忘れもしない因縁深いものであった。かつて自分が2068年のあの時、完膚無きまで叩き飲めされ、苦杯を舐めさせられたあの忌々しきライダー。仮面ライダーパラド。彼とこの2018年の時空で相見えるとは考えもしなかった。2068年の時空では俺たちレジスタンスの任務を阻止したが、今度は何の為に来たのか？

「2018年まで来て一体何の用だ？我が魔王の為とは言わないだろうな。」

「その通りだよ。ゲイツ君。我が霸王の為さ。」

相変わらず此方の癩に障る口調で返してきた彼の姿を見る。

あの時身に付けていたメタルビルドのアーマーではなく、ゲイツの知らない別のライダーのそれを纏っている。顔面には黒い鬼の様な仮面がつけられており、全身には激しい炎を思わせる紅い装甲を身に付け、片手にはそれよりかは濃い赤色の青い縁取りが為された弓があった。その姿はゲイツが歴史を勉強した際に学んだ戦国武将を想起させるものだった。後に知ったが、変身者の浦山は、新しく手に入れた仮面ライダータイラントの力を使っていたのだ。ゲイツは我が霸王という言葉聞いて思わずジオウの方を見やっしたが、肝心の彼は、鳩が豆鉄砲を喰らった様な目をしていた。彼もこの事は知らないようだ。

だか、まあいい。あの時の借りを返す時だ。

「悪いが、オーマジオウの思い通りにはさせせん。お前をここで倒す。」

「へえ、随分と威勢が良いねえ。でも我が霸王の為に僕も退けないよ。」

「舐めるな。俺はもうあの時の様な無様な姿は見せん。それに新しい力もある。」

そう言ってクローズライドウォッチを突き出すゲイツ。

「面白いね。あの時の自分を無様だと思っただ、偉いね。それじゃあ、もつと僕を楽しませてくれるかな?」

「ほぎけー！」

ゲイツはクローズライドウォッチを起動させ、ジクウドライバーにセットして、回転させた。

『CROSS—Z!』

『ARMORTIME! Wake up Burning! CROSS—Z!』

ベルトが高らかに鳴り響くと共に情熱の戦士仮面ライダークローズの力を宿したアーマーが拳を掌に叩きつける動作を行った後、バラバラに分解してゲイツの体に装着し、力を授ける。

「今の俺は、負ける気がしない!!?」

「仮面ライダークローズか。成る程ね、なら此奴かな?」

そう言うのと、パラドは一つのライドウォッチを取り出し、起動させた。

『DARKKABUTO!』

起動したそれをベルトのスロットに装填して、上部のボタンを押す。傾いたそれを、突撃してきたゲイツクローズアーマーをいなしつつ回転させた。

『ARMORTIME! Change Beetle! DARKKABUTO!』

音声と共にアーマーが目の前に現れ、パラドがそれを蹴ると同時に分解し、全身に装着される。ゲイツはそれに臆する事なくパラドの頭目掛けて渾身のパンチを打ち込む

が、それを右手で受け止めてガラ空きの胴にヤクザキックを打ち込む。怯んだゲイツに對して、更に頭目掛けて回し蹴りを放つ。腕をクロスしてガードする彼の足を右脚での足払いで払い退けて転ばせると、立ち上がるうとする彼の腹に蹴りを入れて転ばせ、彼が苦悶の声に喘いでいる隙にダークカブトウオツチを押しす。

「君はこの世界で死んじゃうかもね。クロックアップ。」

『CLOCK UP!!?』

ダークカブトウオツチから音声が鳴ると同時に、アーマーが装着者に宇宙の力、時を歪め、未来の世界へと使用者を誘うクロックアップを授ける。ドライブのそれよりも速い領域へと一人突入したパラドは、未だ地面に転がっているゲイツを蹴り上げる。通常より遙かにゆっくりと空中に浮かぶゲイツを更に追撃で数発の膝蹴りを入れてより高く打ち上げたところでパラドは必殺技の準備を始めた。まず、パラドのウオツチを押しす。

『FINISH TIME!』

続けてダークカブトウオツチを押しす。

『DARKKABUTO!!?』

未だに空中を彷徨うゲイツを尻目にパラドは、ジクウドライバーのボタンを押しして、それを回転させた。時計の音が鳴り響き、死刑宣告が告げられる。

『クロック！TIME BREAK!!!』

直後、黄色のエネルギー、タキオン粒子を帯びた回し蹴りがゲイツを直撃した。彼が吹き飛ぶと共にクロックアップが解除され、改めて再び地面に転がった生身のゲイツが、常盤ソウゴの目に一瞬にして現れた。僅か数秒で、仮面ライダーが変身解除された。その事に驚きを隠せず、動揺する彼に、爆炎の中から仮面ライダーパラドがゆつくりと近づいた。警戒する彼に宥めるように言う。

「まあ、落ち着いてよ。我が霸王。僕は自衛をしたただけだよ。」

「いや、とても自衛には見えないんですけど……。」

「多分死んでないから大丈夫だよ。手加減したしね。」

「え、あれで☒」

「うん。ところでさ、僕に聞きたいことはある？」

「結構あるよ。だからさ、まずはクジゴジ堂に来てくれないかな？あそこは俺の家なんだ。そこで話さない？」

「我が霸王がそう言うのであれば仰せのままに。」

「んでさ、ゲイツはどうするの？」

振り返ると、完全に伸びきって地面にぶっ倒れているゲイツの姿があった。流石にそのまま放置する訳にもいくまい。実を言えば今この場で彼を始末したかったのだが、ソ

ウゴに仲間（笑）の死のショックを与える訳にもいかないのです、泣く泣く連れて帰ることにした。この際、変身解除した彼の姿を見て、ソウゴの顔が真っ赤になった事を、浦山は、知らない。

歪み

165：緑ウオズ

ライブ配信中

『……………僕を楽しませてくれるかな?』

やだ、この子怖い。

166：カフェ・オ・エボルト

何処の究極の闇だよww。

167：ハイスクールファイズ

もう言ってることがダグバと変わりませんね（スナギツネ）

168：呪術師のウィザード

やってる事も結構容赦ないぞ。しかもあれで本気じゃないからな。

169：転生したらクウガだった件

究極の闇と聞いて。

170：平から成り上がった最強のクロノス

クロックアップからのライダーキックってお前……。

171：鬼滅のイクサ

しかも結構本家に近いやり方という。

172：元格闘家のクローズ

やったのは本物の方だがな、でもかなりカッコイイぞ。

173：転生したらクウガだった件

推奨BGM：FUL○ F O R O E

174：エターナル京水

おっしゃるとおりだわああああああ
!!!!!!

175：緑ウオズ

あの曲はいい出来だよね。

176：ハイスクールファイズ

特にサビの部分が痺れますよね。

177：HUGつと鳴滝

確かに良い曲だよな。ところで、またイツチが新しいライドウオツチを手に入れ

たそうだよ。(風の噂)

178：元格闘家のクローズ

風の噂ってなんだ？(困惑) まあいい。で、誰のウオツチだ？

179 : HUGつと鳴滝

……誰だと思う？

180 : カフェ・オ・エボルト

……万丈だ。

181 : 鬼滅のイクサ

反応が速い！

182 : 呪術師のウイザード

しかも本人というwww。

183 : ハイスクールフアイズ

本人が言うと言説力大きいですね。でも、万丈ライドウオッチは無いでしょw

ww。

184 : 緑ウオズ

なんだい、その持ったら火傷しそうなウオッチはwww。

185 : HUGつと鳴滝

まあ、おふぎはこの位にして、ま、入手したのは仮面ライダーエ

ボルとブラッドとキルバスのライドウオッチだな。

186 : 元格闘家のクローズ

仕掛けたのはお前だろ！って、え？

189：鬼滅のイクサ

へ？

190：カフェ・オ・エボルト

おおく俺たちのウオツチとはなあ。結構面白いことやるじゃねえか。

191：ハイスクールファイズ

えつと、確実に地球滅亡案件ですよ。これ。

192：呪術師のウイザード

いや、待て、落ち着け。まだブラックホールと決まった訳では無い!!？

193：鬼滅のイクサ

イツチラスボスになりそう。

194：緑ウオズ

洒落にもならないからやめて？

195：元格闘家のクローズ

しかし、アナザービルドが倒されて歴史の改変が終わったのにどうして万丈はラ

イドウオツチを持ってたんだ？

196：ハイスクールファイズ

確かにそうですね。彼のウオッチは既に渡されていた訳ですしお寿司。

197：呪術師のウイザード

それが事実ならば、その時点でビルドの歴史は消滅しているな。万丈の中にあるエボルトの遺伝子も消えてる筈だ。どうしてクロースウオッチを渡した後でエボルトとブラッドとキルバスのウオッチを渡したんだ？

198：エターナル京水

これも時空の歪みかしら：

199：カフェ・オ・エボルト

これは俺の推測になるが、いいか？

200：平から成り上がった最強のクロノス

OKや。

201：緑ウオズ

ああ、構わないよ。

203：カフェ・オ・エボルト

おう。んじゃ、話すぜ。俺は恐らくイツチのダークライダーの力を惹きつける魅力の様なものが原因だと考えている。まず、イツチが最初から持っていたウオッチのライダーは皆違う媒体の出身だ。

サイガ、ダークゴーストは劇場版

メタルビルドはVシネマ

ダークカブトは本編

特にサイガはファイズ本編とはパラレルの世界のライダーだ。しかも過去にとつくに死んでいる。それなのにライドウオッチがイツチの元に来た。こいつは恐らく時空の歪みによって起きた事ではないかと考えている。ライドウオッチは即ちライダーの歴史そのものだ。それを惹きつけるという事はライダーの世界を惹きつけるものだと思うぞ。そのせいでジオウ本編の世界と幾つかの世界が融合を始めたんだろうなあ。その結果時空が混線し、その中の何処からエポルトとブラッドとキルバスが生きている世界線が現れ、その歴史がライドウオッチとしてジオウ本編の万丈に渡ってそこからイツチに渡った。これが俺の推測だ。

長文失礼するぞ。

204：鬼滅のイクサ

つまり、他のライダーたちのウオッチも彼らが生きていた世界線からイツチの元に来たという事か。

205：緑ウオズ

これから先の展開が読めなくなりそうだね……。

206：HUGと鳴滝

そんなイッチに朗報だ。あのデイケイドが動き出したらしいぜ。

207：ハイスクールファイズ

なんですって！

208：緑ウオズ

あのもやしがか!?

209：呪術師のウィザード

待て待て☒もやしが出てくるのはゴースト編からだろお☒

210：転生したらクウガだった件

彼が時空の歪みを察知したからでしょうか？そしたらイッチの世界のジオウの

物語がもつと歪みますよ！

211：鬼滅のイクサ

門矢氏の出現が未来にどう響くか、それは誰にも分からん。それに時空の歪みはタイムジャッカーも察知している筈だ。アナザライダーの動きも活発になるやもしれん。

212：ハイスクールファイズ

今はアナザーエグゼイド編ですよ？イッチはどう動くのでしょうか？

213：元格闘家のクローズ

嫌な予感がするなあ。おい！鳴滝、ライブ配信出来るか？！

214：HUGつと鳴滝

任せろ。ほれ。ライブ配信中…

215：緑ウオズ

なんなんだいこれは……たまげたねえ。

216：鬼滅のイクサ

イツチとゲイツと我が魔王がデイケイドと戦ってるだど？！

『クリティカルタイムブ레이크!!?』

キメワザの宣告と共に、今まで我が霸王一行を苦しめてきたアナザーエグゼイドは、

空中にて仮面ライダージオウエグゼイドアーマーの必殺技を受けて、見事に爆散したのだった。全く大変であった。何しろ奴が本家と同じくゲーム空間を自在に行き来することが出来るとは思ひもなかった。ようやくと捕捉し、戦闘に突入したかと思えば、奴の動きにゲイツ君が苦戦し、(我が霸王は違う……筈)撃破したかと思えば今度はあの宝生永夢ウー！が現れてこちら側に攻撃し始めるので、かなりカオスな状況となっていた。幸いな事に宝生永夢ウー！はムテキゲーマーに変身しなかったし、アナザーライダーの身元が割れて、無事ウオッチの継承も完了したのだった。

「そんなんじゃないんだけど……。」

永夢先生はそう言っているけど、僕はこれでいいですよ。カットインすら武器に使うという我が霸王なりのアレンジが加わって良い味出していると思えますよ。僕は。はたと隣を見つめると、仏頂面をしたゲイツ君が立っていた。とりあえず、話し掛ける事にする。

「なんだい？ゲイツ君。そんな顔してさく何か悪いことでもあったのかい？ま、君はいつもそんな顔だけどき。」

「お前は俺をおちよくっているのか？」

ゲイツ君がとても苛立った声で返す。

「ま、いいじゃん。我が霸王は最高最善の道を歩むと誓った訳だしさ。こうやってアナ

ザーライダーも撃破出来たんだし、万事順調じゃん。」

「何が良いのかさっぱりだな。それに、奴の言っている事は口先だけに過ぎん。」

「どうして君がそう言い切れるんだい？」

「お前にも分からののか？ 奴がオーマジオウとなっていた未来から俺とお前は来たんだ。その事実自体が、オーマジオウへの未来へと確定しているんだ。」

「ふふふ、そうとは限らないかもよ？」

「何？」

「だってさ、未来なんて誰にも分からないものだよ？ 確かに僕たちはオーマジオウが君臨する未来からやってきた。でもね、僕たちがこの時空に入ること、元の時空が大きく変わるかもしれない。歴史とはそういうものなんじゃないかな？ ちよつとした事で幾つかの選択肢が現れて、そこから幾つもの可能性が生まれる。歴史って無限大なんじゃないかな？」

「……………何が言いたい？」

「頭が理系のゲイツ君には難しいかな？ ようは先を考えろって事。一つの事実には拘らないでさ、もうちよつと頭を捻って想像を重ねてごらん。」

「妄想に浸る気はない。俺は奴を倒す。そして新しい未来を作る。」

「ならさつさとやればいいのにさ。いつまでも尻込みしてさ。ま、我が覇王がアナザー

エグゼイドを撃破した訳だし、クジゴジ堂に帰ろっか。」

そう言つて踵を返したその時、背中に悪寒が走った。思わず振り返ると、ジオウのいる場所に向かって火球が飛んでいたのだった。ジオウもこれに気づいたらしく、大急ぎでジャンプして回避したのだった。そして、彼らと合流した。

「危なかつたね。我が霸王。」

「うん、このアーマー無かつたら食らつてたかも。」

「一体誰の仕業だ！」

ゲイツの声に反応するかの様に彼らの目の前に、とあるライダーがその姿を現した。全身が赤く、胴には銀色の装甲を纏っている。顔は同じく銀色のマスクで覆われているが、その中から赤い複眼がこちらを覗いている。そのライダーはどことなく龍を思わせるスタイルをしており、その腕には龍の頭部を象った手甲が装着されていた。浦山は一見ただけで、そのライダーが誰か分かつた。ゲイツも分かつたらしい。

「お前は、仮面ライダー龍騎!!？」

ゲイツが口にしたのは、平成第三作目の鏡の世界で戦うライダー、仮面ライダー龍騎である。しかし、浦山はそのライダーが龍騎ではない事に直ぐに気づいた。正体がわかつた時、浦山は自分の体が震えるのを感じたが、それを抑えて言った。

「いや、違うね、お前は龍騎じゃない。何者？」

予想通りの答えが返ってきた。

「ほう、見破ったか。俺は通りすがりの仮面ライダーだ。」

やはり、奴は仮面ライダーデイケイド。世界の破壊者にして他の仮面ライダーに変身出来る厄介な能力を持つ相手だ。しかも、僕が知っているデイケイドとは違って白いベルトではなく、マゼンタのベルトを付けている。恐らくW以降の世界を周って平成2期のライダー達の力も手にしたのだろう。だとすると今の僕たちが相手するのはかなり厳しい。ここは撤退でもしようかと浦山が思案していると、デイケイドが挑発を始めた。

「何だ、お前らボケっと突っ立っているだけなのか？」

「望む所だ！受けて立とう！」

「ちよつと×ゲイツ君×待ちなよ！」

慌てて彼を静止したが、時既に遅し。挑発に乗った彼は果敢に仮面ライダーゲイツに変身して果敢に突撃を始めたのであった。当然、彼を仲間だと思っているジオウもエグゼイドアーマーのまま戦いに挑む。そして浦山も我が霸王を放つては置けぬと仮面ライダーパラドに変身してデイケイドに攻撃を開始した。3対1という厳しい状況下に置かれても尚デイケイドは余裕綽々といった態度で、ライドブッカーから一枚のカード

を抜き取り、こちらに見せた。こちらの動きが思わず止まる。

「まあ、落ち着けよ。焦らずともシヨールは楽しめるぞ。」

カードをベルトに入れると、ライダーのクレストが浮かび上がり、電子音が流れる。

『KAMENRIDE OOO!』

『タ・ト・バ タトバ タ・ト・バ!』

タカ、虎、バッタの力を持つて戦う欲望の戦士、仮面ライダーオーズにカメンライドを果たしたデイケイドであったが、その姿を見てジオウとゲイツはかなりの衝撃を受けていた。それは勿論浦山にも言えることであったが、彼の場合、ジオウたちとはまた違った意味で衝撃を受けていた。オーズに変身したという事は……。オーズ好きで、彼の出演する映画を全て観た浦山だからこそ最悪の光景が浮かんだ訳だが、それは悪しくも現実になったのであった。

「お前らにはちよつとしたサービスを付けてやる。」

デイケイドは更にもう一枚のカードをベルトに入れた。

『FORMRIDE OOO GATAKIRIBA!』

『ガータガタガタツキリツバガタキリバ!』

本来のオーズタトバコンボからクワガタ、カマキリ、バッタの力を解放した全身緑色の昆虫戦士ガタキリバコンボにチェンジしたデイケイドは三体に分身して、更に他のラ

ライダーへと一斉にカメンライドを開始した。

『FORMRIDE OOO TAJADOR!』

『タージャードルー!』

『KAMENRIDE WIZARD!』

『ヒィー!ヒィー!ヒィーヒィー!』

『KAMENRIDE GAIM!』

『花道・オン・ステージ!』

タカ、クジャク、コンドルの力を宿した炎の戦士、オーズタジャドルコンボ。

絶望の中でも諦めず、希望を信じて仲間と共に戦う魔法使い仮面ライダーウィザード。

頭に果物の鎧を被り、どんな逆境に立たされようとも友の絆を信じ、己の信じるものの為に戦う鎧武者仮面ライダー鎧武。

これらのレジェンドライダーに変身を果たしたダイケイドは一斉にジオウたちに襲い掛かった。

無論。固まっているばかりの彼らではない。ゲイツがディケイドウィザードと、ジオウがディケイドガイムと、そして浦山がディケイドオースタジャドルコンボとそれぞれ交戦することとなった。

圧倒

『ARMORTIME! カイガン! GHOST!』

『ARMORTIME! Complete! PSYGA!』

「命、燃やすぜ。」

「Let the GAME begin!」

ジクウドライダーがライダー達の名を高らかに唄い上げる。それと同時にそのライダーの力と歴史を宿した鎧が出現する。鎧たちには自我があるらしく、一方は腕を緩く突き出して、相手を挑発するかのようなポーズを取っており、白と青の色が特徴的だ。もう一方の鎧は両手で印を組んで立っている。肩にある目玉の形をしたパーツが印象的だ。鎧はポーズを取ると、自らバラバラになって、主である二人のライダーに装着された。

仮面ライダーゲイツ・ゴーストアーマー。

仮面ライダーパラド・サイガアーマー。

二人はそれぞれアーマーの特徴を活かして、デイケイドたちと戦う。ゲイツは片手で印を組むと、肩の眼魂を模したパーツから、色とりどりのパーカーゴーストが現れてゲイツと共に進撃を始める。パラドは背中に装着したジェットパックであるフライングアタッカーを使い、白煙を噴射しながら、高空へと一気に駆け上がっていく。一方、先程のアナザーエグゼイド戦からの連戦となるジオウはエグゼイドアーマーのまま戦闘を継続することとなった。

では、彼らの戦いを見ていこう。

パーカーゴーストを周囲に侍らせ、自身はジカンザックスのおのモードでデイケイドウィザードに斬りかかるゲイツ。それに対してデイケイドウィザードは、流れる様な動作で、素早く彼の手を払い除けて蹴りを胸に打ち込む。ゲイツは少し怯んだものの、体勢を直ぐに立て直して印を組み直す。それを合図にして、彼の上空にいたパーカーゴーストが一斉にデイケイドに向けて突撃を始める。色は、赤、青、黄色。

それぞれ宮本武蔵、エジソン、ニュートンの力を宿した幽霊が迫り来る中、彼は焦ら

ず、カードをベルトの中に入れて読み込ませた。

『ATTACK RIDE PLAMONSTERS!』

音声が鳴った途端、彼のベルトから本来のウィザードが使役する三体のプラモンスター、レッドガルーダとユニコーン、そしてクラーケンが召喚され、パーカーゴーストたちの進路を阻み、戦闘に突入していく。

空の上で同じ色同士の使い魔が戦う中、その主人たちも闘いを繰り広げていた。ジカンザックスで果敢に攻め立てるゲイツにたいし、ウィザーソードガンを優雅に振り回して的確に攻撃を捌くデイケイドウィザード。お互いに一進一退の攻防を見せるが、それは逆を言えば双方ともに決定打を出せていないと云う事でもある。このままでは泥試合に陥って仕舞う。消耗は出来る限り避けて、なるべく早くに決着をつけよう。そう考えたゲイツは罅迫り合いになっていたジカンザックスをおのモードからゆみモードに変形させると同時に至近距離でデイケイドに射撃を繰り返す。ジカンザックスの変形を素早く見てとった彼はゲイツから離れると共に、バック転をして空中で体を捻り、地面に水平な体勢を作ること、弾丸を避けるデイケイド。しかし、ゲイツは追撃の手を緩めることなく、弓を引き続ける。放たれる光の光弾をダンスを思わせる華麗な足捌きで難なく回避するデイケイドウィザード。彼はそのままウィザーソードガンの形を剣から銃に変えて反撃を回避して撃ち始めた。弾丸は彼の無理な体勢にも関わらず、狙い

過たずにゲイツの胴体を貫くかに思えた。

だが……ゲイツは突如として空中に浮かび上がったかと思うと、ジカンザックスにライドウオッチを装填。一気に必殺技の態勢へと持ち込んだ。

『FINISH TIME!』

「何☒」

「油断したな!」

『クローズ! ギワ・ギワ・シユート!!?』

間髪入れずに弓を引くと、それまでの光弾とは違う蒼いドラゴンの姿をしたエネルギー体が放たれ、一直線にデイケイドの元へと突進した。不意を突かれた彼はそのまま直撃を喰らい、呆気なく爆散していった。実は、ジカンザックスを弓モードにして連射していたのはゲイツの策だったのだ。近接戦では罫が明かない。そう睨んだ彼は銃撃することで距離を取る事にしたのだ。作戦は成功。彼の攻撃は、見事にデイケイドを撃破した……かに思われた。

「やったか……。」

「何やってんだ? お前。」

『ATTACK RIDE DORAGORISE!』

「何だと☒」

爆炎の中から現れたデイケイドウィザードがベルトを操作している様子を見て驚愕するゲイツの目の前に赤い魔法陣が出現すると共に中から巨大な銀色の龍がその姿を見せた。本来のウィザードの魔力の源であり、希望の源泉でもあるファントム、ウィザードラゴンがその巨軀をゲイツの前に現した。ドラゴンはそのまま彼に火炎弾を吐きつけるが、ゲイツの対応はあくまで冷静であった。再び印を組み、肩から先程よりも更に多くのパーカーゴーストたちを召喚して、ドラゴンにけしかけた。

ゴエモン、ビリー・ザ・キッド、ベートーベン、卑弥呼、一休。

偉人の魂たちが一斉に突っこんでいく。ウィザードラゴンを封じたゲイツであったが、逆にそのせいで隙を作って仕舞ったことに彼は気づかなかった。それを見逃すデイケイドではない。彼は必殺の金色のカードを装填し、手をばんばんと叩く。死刑宣告の音が響く。

『FINAL ATTACK RIDE! WI・WI・WI・WIZARD!!?』

デイケイドウィザードがウィザードガンの手に握手する様な形で手を触れると、剣が赫い焰で包まれると共に剣先も異様に長く、大きなものとなった。そしてそれを空中にいたゲイツに向けて振るう。ウィザードの必殺技の一つ、フレイムスラッシュが油断していたゲイツに直撃し、後方に大きく吹き飛ばして、変身を解除させた。

「油断がなんだって?」

「くそっがー！」

ゲイツは悔し紛れに地面を叩いた。

実はデイケイドはゲイツが必殺技を使うことを見抜いて、銃弾を回避する中でベルトの中に「アタックライド・バリア」のカードを忍ばせており、彼の攻撃が直撃する瞬間に発動することで、効果音を打ち消しつつ、更にウィザードのフレイムスタイルのバリアが炎の壁であることも利用してあたかも彼が爆炎の中に消えた様に見せかけていたのである。経験に優るデイケイドの策略勝ちであった。

次は、パラドとデイケイドの戦いを見ていこう。

遙か高空を二人のライダーが舞う。一人は仮面ライダーパラドサイガアーマー。背中に装備されたフライングアタッカーを駆使して空中を階段の様に駆け巡り、その航跡には白い雲が柵引いている。もう一人のライダーは、デイケイドオーズタジャドルコンボ。背中に六枚の翼を展開してあたかも本物の鳥の様な動きを見せている。パラドはフライングアタッカーのガトリングを掃射する。それに対して、デイケイドオーズは左手に装備された円形の武器、タジャスピナーで火炎弾を撃ち放つ。互いに激しく撃ち合い、時には戦闘機を思わせる複雑な機動で相手の後ろを取り合う。

これでは埒が明かない。

そう判断した二人はほぼ同時に地面に着地し、接近戦の構えを取った。ここでも双方の隙を狙う睨み合いが続く中で、流れを変えたのはパラドの方であった。パラドはホルダーから赤黒いウオッチを取り出したかと思うと、スターターを押しして起動させた。

『BLOOD!』

「新しい力を試してやる。」

彼の言葉にデイケイドオーズは興味を示した。

「ほう？俺が見たことないライダーだな。どんな奴なんだ？」

「直にわかるよ。」

サイガウオッチを取り外し、ブラッドのものをジクウドライバーにセットすると共に一回転させる。それと同時に目の前に新たなアーマーが現れた。電子音もライダーの名前を高らかに唄う。

『ARMOR TIME! ブラブラブラブラブラア! BLOOD!!?』

白と青の清流の様なアーマーに代わり、赤黒く、邪悪さすら感じられる不気味な鎧がパラドに装着される。紫のワイン色の霧が晴れると共に変身を完了したパラドブラッドアーマーはデイケイドに向かい、緑のマントをたなびかせて、決め台詞を放った。

「君の役目は、ここで終わりだよ。」

「残念だがそれは叶いそうにないな。俺の旅に、終わりは無い。」

そう言つてデイケイドオーズに向けて殴り掛かるパラドに対して、タジヤスピナーを盾にして防御の姿勢を取つたが、激突した直後に彼の拳が直撃した瞬間、デイケイドは大きくよろめいて仕舞つた。しかもその事に、驚きを隠せない。

（俺は確かに防御した筈だ。それなのに、何故ただのパンチ一つで怯む？）

考える暇も無く、次の攻撃が放たれる。今度は左から拳が放たれる。だが先程の攻撃によつて、彼の力を測つたデイケイドは受け流すようにして彼のパンチを避けてコンドルレッグによる回し蹴りでパラドを引き剥がすと、タジヤスピナーから火炎弾を至近距離で叩き込んだ。パラドの体に火花が散ると共に、呻き声上がる。それを見たデイケイドオーズは更に追撃を入れる。腕に装備されたエルボウインザーがその鋭い切先を振り回して着実に彼の体を切り裂いていく。炎を纏つたコンドルレッグの攻撃も相まつてデイケイドオーズが押しているかのように思えたが、幾度目かのパンチを放つた所で、それをパラドは受け止めて見せた。それを放そうと繰り出される蹴りも右手で弾き飛ばし、強引に足を進めてデイケイドの体勢を崩してそのまま殴り掛かる。すつ転ぶのをなんとか踏み留まつて、再びタジヤスピナーで守りを固めるデイケイドオーズであつたが、受けたパンチの威力は先程受けたものとは全く桁違いの威力であり、デイケ

イドの体を崩すどころか、大きく跳ね飛ばして近くの建物の壁に叩きつけた。

(何??:……成る程、大体分かった。)

デイケイドはダメージを負いつつも、パラドのアーマールの力を見抜いていた。

(何らかの力で威力を制御しているのだろうか。しかも自由自在に。やろうと思えば必殺技クラスのパワーまで引き出せるのか、これは早めに勝負を付けたほうが良いかな。)

彼の読み通り、ブラッドアーマーには重力波によって攻撃の威力を調整する機能が備わっていたのだった。これを脅威と捉えたデイケイドは、背中から六枚の翼、クジャクフェザーを広げて攻撃が届くことのない大空へと舞い上がる。そしてそのまま決着をつけるべく金色のカードをベルトに入れて読み取らせる。

『FINAL ATTACK RIDE! O・O・O・O・O O!!?』

空中で一回転し、爪先に炎を纏わせて、一気に肥大化。巨大な爪が急降下で速度を増しつつ、標的を押しつぶさんとする。オーズタジャドルコンボの必殺技、プロミネンスドロップが迫る中、パラドもまた必殺技の用意をしていた。パラドウオッチとブラッドウオッチを押し、ジクウドライバーを傾ける。

『FINISH TIME!』

『BLOOD!!?』

ドライバーを一回転させる。

『DORAGONIC!!? TIMEBREAK!!』

脚先に黒い炎が発生し、それが極限まで太く、大きくなった所でパラドはデイケイドオーズに向けて飛び上がり、右脚を突き出す。力と力が衝突し、辺りに衝撃波が巻き起こる中、拮抗が続き、双方共に氣力を尽くして脚にパワーを込める鬨ぎ合いに勝利したのは……

パラドであった。デイケイドオーズの分身は消滅したものの、彼のダメージもまた大きく、変身が解除してしまい、地面にその身を横たえる。再び変身する余裕は彼には無かった。向こうを見ると、ジオウとデイケイドが戦う姿が見える。その姿を見て彼は主に君に声を投げ掛けた。

「後は任せましたよ、我が霸王。」

「はああああー!」

氣迫溢れる声と共に、周囲の建物を台にして蛙のように四方八方に飛び回る仮面ライ

ダージオウエグゼイドアーマー。全身がピンクで染まったその鎧は日の光を反射して、あたかも劇の主役にスポットライトが当てられたかの様に煌めき、輝いている。それに対して動かざること山の如くを体現するかの様に、その場に留まり続ける仮面ライダーディケイド鎧武。肩に大橙丸と無双セイバーを掲げていかにも退屈といった風に佇んでいる。その様子を見たジオウは、これを幸いとして建物の壁を足場にしてディケイドに思いつきり飛び掛かった。

「うおおおおー！」

腕に装備されたハンマー、ガシャコンブレーカーブレーカーを大きく振り上げ、背後から迫り、ディケイドを叩き潰さんとするが……

「ほう、確かに筋は良いな。」

ディケイド鎧武は、まるで後ろに目が付いているかの如く、振り向き様に大橙丸と無双セイバーを連結した薙刀モードに変形させてジオウに返す刀に斬り掛かる。オレンジ色のエネルギーが彼を真つ二つに両断せんと迫るが、ここでジオウは策に打って出た。ディケイドの目の前に突如として茶色のブロックが出現し攻撃を阻む。無論、彼は驚きこそしたものの、それで動きが止まる訳では無い。ブロックは呆気なく粉碎されたが、明かされた視界の中にジオウはいなかった。何処にいるか周囲に首を巡らして様子を伺うディケイドに重い衝撃が突然加えられた。

「ぐあつ」

驚きの呻き声を上げる彼の側を黒い何かが高速で走り抜ける。黒い何かはそのまま進路上のビルにぶつかったかと思うと、スピードを落とす事なくもう一度デイケイドに向けて突進する。それを薙刀モードでかろうじて防ぐ彼であったが、体勢を崩して仕舞う。その隙をジオウが見逃す筈もなく、ガシャコンブレーカーブレーカーで更なる追撃を掛ける。ハンマーの重い一撃が次々と体に刺さる中、デイケイド鎧武はなんとか一枚のカードを抜き取ると、ジオウの胸にライドブツカーで銃撃を加え怯ませる。ジオウが呻いて動きが緩慢になった瞬間にデイケイドはすかさずカードを装填した。

『FORM RIDE! GAIM JINBER PEACH!』

『ミックス! ジンバーピーチ! ハハア!』

被っていたオレンジの鎧を外し、黒にピンクの直垂がある鎧を装着したデイケイド鎧武は片手にソニックアローを装備し、そこからピンク色のエネルギー弾を撃ち放つ。これを避けたジオウは空中に多数のブロックを構築し、次から次へとそれらに飛び乗ってデイケイドの周囲を飛び回る。彼にソニックアローを乱射するが、天才ゲーマーMの腕を受け継いだジオウエグゼイドアーマーの動きを前に苦戦しているかに思えた。幾度目かの射撃がチョコブロックを砕いたかと思われたその時、ブロックの中から現れた黄色の丸い何かにジオウが触れた瞬間先程と同じく、黒い残像を残して加速した世界に突

入したジオウは直ぐにベルトを一回転させて必殺技を発動した。

『FINISHTIME! EX-AID! CRITICAL TIME BREAK!』

技名のコール音と同時に「クリティカルタイムブレイク」と表示されたカットインが出現し、文字が具現化。それを蹴り飛ばして自身も空高くジャンプした所でジオウはある異変に気づいた。目の前にいた筈のディケイドがない。慌てて彼を探して見るが、何処にもいない。もしかして逃げたか? そう彼が思った瞬間。

「面白い奴だな。魔王とやらは。」

『FINALATTACKRIDE! G・G・G・GAIM!』

彼の背後から必殺の音が聞こえ、振り返ってみればソニックアローをギリギリまで引き絞るディケイド鎧武の姿があった。彼は鎧武ジンバーピーチアームズの特徴である強力な聴覚をもってジオウの動きを感知し、彼とチョコブロックが一直線になった所で大きく跳躍。彼の背後に回り込んだのであった。彼のソニックアローには桃色のエネルギーが込められ、一部が漏れ出ているのか同色の粒子が溢れている。必殺の一撃が放たれようとしたその時、ジオウの思いもよらない反撃が始まった。

「う、うおおおお!?!」

「何?」

突然ジオウの体を捻ったかと思えば、カットインにより具現化した文字を手当たり次第にデイケイドに向けて投げ付けたのだ。次々と迫る巨大なカタカナに思わず手元が狂ったデイケイドは慌てて発射して仕舞った。桃色のエネルギー弾は凄まじい勢いでカタカナを砕き、猛烈な衝撃波が巻き起こる。その勢いでジオウは吹き飛ばされ変身が解除されたが、デイケイド鎧武はカメンライドが解除されて元の姿に戻った。デイケイドはさもダメージを受けていないかの様に立ち上がると、ライドブツカーを担ぎ、こう言った。

「お前らのことは大体分かった。また会おう。」

「何がわかったのか全然分かんないですけど……。」

ソウゴの突っ込みに背を向けてデイケイドはオーロラの中に消えていった。

夢

259：緑ウオズ

さて、ライダー最強論争も終わったことだし、それぞれの近況報告といこうじゃないか。

260：カフェ・オ・エボルト

先ずは俺からだな。いつも通りのカフェ経営だ。あ、そうそう後兄貴のキルバスと殺り合つて星一つ滅んだな。以上。

261：ハイスクールファイズ

軽い口調で星滅ぼしたなんて言わないでください。余計に怖いです。

262：呪術師のウィザード

さつきまで命だったものがブラックホールに呑まれる…。

263：カフェ・オ・エボルト

大丈夫だ、問題ない。その星に生命体はいなかった。

264：元格闘家のクローズ

加減しろ！莫迦！俺のところのエボルトまだフェーズ4だぞ！

265：緑ウオズ

え、フェーズ4？いや、キルバス相手にそれは無理じゃないか？あ、今私はアギト編だね。……我が霸王の留年が、決まったよ（涙目）。数学のテスト15点だって（泣）。

266：呪術師のウィザード

それは……嫌な出来事だったね……。俺はまだ宵祭り編だな。ダム湖であのエヴァ擬きをシャイニングストライクツ！（物理）してきたよ。

267：鬼滅のイクサ

装甲傀儡をエヴァ擬きと言うのは辞めたまえ。というかお前インフニティー解放していたのか。

268：呪術師のウィザード

おう。交流会編で変身出来てな。花御真つ二つにしたんやで。今はもうドラゴンゴールドまで行ってるぞ。

269：ハイスクールファイズ

それメカ丸大丈夫なんですか☒

270：呪術師のウィザード

ミンチよりも酷えや。

271：元格闘家のクローズ

(あつ、察し。)

272：転生したらクウガだった件

あつ、察し。じゃないですよ☒下手したら京都校のメンバー全員に嫌われますよ☒

273：呪術師のウイザード

安心しろ。さっきのは嘘や。本当は真人をドラゴンゴールドで吹き飛ばしたんや。

274：転生したらクウガだった件

良かった…。あ、今僕は一条さんと一緒にズ集団を殲滅した所です。

275：エターナル京水

内通者でもしつかり守るのね！その姿勢、嫌いじゃないわ！私は今、園崎家を調査

中よ。テラーフィールド怖いわね…。

276：平から成り上がった最強のクロノス

お前らも色々あるんだなあ。俺は今ゲームデウス戦の準備中や。

277：ハイスクールファイズ

僕は学園内の悪魔を捜索中です。

278：HUGと鳴滝

そんなことより、おい、お前ら！イツチの帰還だぞ！盛大に出迎えてやれ！

288：緑ウオズ

何☒では早速祝わなければ!!?

祝え! 遙か彼方、我らとは別の時空から訪れし過去と未来を繋ぐ預言者、仮面ライダーパラドこと浦山純一! 正に帰還の瞬間である!!?

289 : HUGつと鳴滝

祝い乙だな。

290 : カフェ・オ・エポルト

乙だぜ。

291 : 元格闘家のクローズ

祝福の鬼、此処に爆誕。

292 : エターナル京水

乙だわ。

293 : ライダー転生者

皆さん。久しぶりです! 只今帰りました。

294 : 鬼滅のイクサ

イツチ久しぶりだなあ。お帰り。

295 : カフェ・オ・エポルト

お帰り、イツチ。

296：ハイスクールファイズ

とりあえずお帰りです。ところで聞きたいことがあるんですが……。

297：ライダー転生者

なんです？

298：緑ウオズ

デイクイドとの対決はどうなったんだい？

299：ライダー転生者

……聞かなくても分かるでしょう？ぼろ負けですよ！大体なんですか？ガタキリバって。あれが後輩ライダーにやる事ですか？しかも明らかに手抜いてましたし！いちいちカッコつけてるのもイライラするんですよ！あの最終回放置もやしスコン！今度あつたらエボルのウオツチ使います！

300：通りすがりのタイプネクスト

落ち着いてください！仮にも先輩ライダーですよ！

301：元格闘家のクローズ

そうなんだが……たしかにそうなんだが。

302：鬼滅のイクサ

言い過ぎだぞ、イツチイ！

303：緑ウオズ

最終回放置もやしスコンwww。ところで、我が霸王たちとの仲はどうなんだい？

304：ライダー転生者

我が霸王とは仲良くやってますよ。ツクヨミには距離取られていますね。ゲイツ？
知らない子ですね。

305：ハイスクールファイズ

やっぱりゲイツ君はそう簡単に心を開きませんよね…。

306：平から成り上がった最強のクロノス

まあ、秋山リリイなだけはあるからな。

307：呪術師のウィザード

秋山の遺伝子を受け継いだからな、ツンデレもしつかり受け継がれているんだろ
な。

308：ライダー転生者

どうすれば心を開きますかね？

309：緑ウオズ

信頼を得るにはそれなりに時間が必要だね。ましてやそれが自分が憎む魔王とそ
の家臣なら尚更だよ。今は兎に角、時間をかけて警戒心を落とす他ないね。

310：ライダー転生者

なるほど、ならば早速実行しないと！行ってきます！

311：鬼滅のイクサ

おう、いつてらっしやい。イツチ。

312：通りすがりのネクストタイプ

いつてらっしやい。

313：カフェ・オ・エポルト

何かあつたら言えよ！イツチ。

こんな夢を見た。常磐ソウゴは、こんな夢を見た。

街が燃えている。自分が見たことも無い街が炎に包まれている。

赤い炎が街を呑み込み、黒い煙が所々に昇り、空を汚している。

建物は倒壊し、瓦礫が地面に散らばっている。人々は泣き叫び、助けを求めて逃げ惑っていた。なんとか彼らを助けようと思ったが、体が何故か動かない。いや、寧ろ体そのものが無い様に感じる。何にせよ俺が何も出来ないことに代わりは無い。さて、此処は一体何処だろうかと考えていると、左の方から爆音とけん騒が聞こえてきた。そっちの方に目を遣ると、そこではライダー達がそれぞれ激闘を繰り広げていた。

赤と金で彩られた派手なライダーが斧を持った水晶色の宝石の様なライダーと戦っている。

長い剣を持った黒いライダーが同じく剣を持つ二色のライダーと斬りあっている。

茶色のバツタを思わせるシンプルなライダーが全身黄色の目に入れると痛痛しいライダーと殴りあっている。

白い鎧を纏う荘厳なライダーが赤と銀の龍の意匠が見えるライダーと斬り結んでいく。

ライダーが死闘を繰り広げる中で、その奥には誰かが立っていた。その姿は光に包まれていて見る事が出来ない。ただ、ソウゴには彼が街の崩壊の原因だろうとする何かある種の勘があった。だが、話しかけようとした所で、急に光が大きくなり、眩しくなっ

て目を閉じた瞬間、目が覚めたのだった。

仮面ライダーパラド

スベック

身長200センチメートル

体重92キロ

パンチ力10トン

キック力20トン

ジャンプ力35メートル（一飛び）

走力100メートルを1.0秒

保有するライドウオツチ

メタルビルド

ダークカブト

ダークゴースト

サイガ

エボル

ブラッド

キルバス

風魔

トウルーブレイブ

アナザーパラドクス

タイラント

ブラックバロン